

TEGOネットだより浜田

「てご」とは、方言で「手伝う(支援する)」という意味です。

平成20年11月7日 第18号
浜田市農林業支援センター

はじめに

水稲の収穫作業も終盤となりましたが、収量はいかがでしたか。平成20年産の作況指数は、全国で102、島根県で100(10月15日現在)となっており、JAいわみ中央管内の一等米比率は80.0%(10月28日現在)となっています。平成21年産の生産調整配分面積は20年産面積と同等もしくは厳しくなる背景にあります。
(浜田市農林業支援センター長 齋藤 實)

1. 各支援チームからの話題

日帰り

■ 集落営農組織支援チーム (担当: 塚本・森井)

先進地視察研修会 参加者募集!!

支援センターでは、女性が集落営農に参画し、加工や販売などの部門に積極的に取り組むことを目指し、担い手アクションサポート事業(国庫補助事業)を活用した「集落営農 先進地視察研修会」を計画しました。視察先は山口県阿武郡阿武町の「農事組合法人うもれ木の郷『四つ葉サークル』」と、萩市紫福の「福の里企業組合」です。どちらの組織も女性が中心となって加工品の製造や販売を行っておられます。

日時: 平成20年12月3日(水) ※時間は変更になる場合があります。

- 8:00 浜田市出発
- 10:00 農事組合法人 うもれ木の郷『四つ葉サークル』を視察
- 13:30 福の里企業組合 を視察
- 17:30 浜田市帰着



▲野菜をそのまま炭にした「お炭つき」は、福の里企業組合の人気商品です

集落営農組織内の女性の皆さんに多く参加していただきたいと考えていますので、各組織においては参加者の半数以上が女性となるよう調整をお願いします。

なお、支援センターで貸切バスを用意しますので交通費は不要ですが、昼食代は実費を徴収します(千円程度の見込み)。詳細はお問い合わせください。

参加申込の締切は11月20日(木)です。たくさんのご参加をお待ちしています!

★ 新規就農支援チーム (担当: 河内・佐々木)

加工品開発について

農家の所得向上を考えた時に、作業手間との関係もありますが、規格外品(すそ物)を加工して商品化することは有効な手段と言えます。加工品開発では、

- ① ターゲットの明確化 (誰に買ってほしいのか⇔目標価格やパッケージデザインに連動)
- ② 加工方法 (技術研究、原料保存方法⇔できるだけ農閑期に製造できないか)
- ③ アイデア (セールスポイントの整理、定番品であってもネーミングや販売方法に工夫を)
- ④ 販売先との共同開発 (販売先の求める商品を開発でき、相手方が培ってきた知識や経験を取り入れられるのでリスクが小さい)

がポイントとなるのではないかと思います。

● 認定農業者支援チーム (担当: 前原・松井)

おめでとう 佐々木さん!



▲表彰状を授与される佐々木さん(左)
10/30 松江市のホテル一畑にて

浜田市後野町の「(有)佐々木農場」の代表取締役 佐々木一郎さんが、県内の各分野で長年にわたって地域社会の発展に尽くしている人を表彰する「2008年 山陰中央新報社地域開発賞」の産業賞を受賞されました。

佐々木さんは、独自の研究を重ねた有機栽培技術により、安全・安心で栄養価が高くおいしい野菜を生産し、県内外の生協やスーパーなどに販路を拡大することで安定した経営を実践してこられました。さらに、浜田市と江津市の有機栽培農家で構成する「いわみ地方有機野菜の会」を結成し、仲間づくりや後継者育成、地域の雇用創出にも積極的に取り組まれている点が高く評価されました。

「自立した農業経営を実現することで、地域も活性化する」という強い信念を持った佐々木さんのますますのご活躍を期待しています。

2. 西条柿栽培講座（収穫・脱渋）を開催しました

10月16日、初心者向けの西条柿栽培講座を三階町の園地で実施しました。受講生の皆さんは、西部農林振興センターの内田普及員から、収穫適期を迎えた柿の色の見分け方や、果実を傷めない扱い方などを教えていただき、いよいよ一番の楽しみである収穫作業に取り組みました。その後は美川選果場に移動して作業の様子を見学した後、ドライアイスを使った脱渋法も体験されました。



この栽培講座は今年度7回開催しますが、今回は収穫した西条柿が実際に商品として出荷される行程を見るという重要な内容で、受講生の皆さんの表情も真剣そのものでした。



3. かなぎピオーネジャム誕生！

浜田市金城町では平成14年からピオーネの生産を開始し、今年は収穫量が15tにまで増えています。栽培農家から成る「金城町ぶどう生産者協議会」の女性部は、出荷シーズンが終わった10月24日、西部農林振興センターの寺戸課長の指導のもと、ピオーネを使ったジャムの製造に挑戦されました。

かなぎ加工センターの蒸気釜で50kgのピオーネを煮詰め、3日がかりの作業で150本のジャムが完成しました。ぶどうの粒をあえて残したものと、なめらかな食感を特徴とする2つの種類があり、11月1日・2日に開催された「さざんか祭り」で販売したところ、大変な人気でほぼ完売となりました。女性部では来年もジャムづくりに取り組む予定で、どんどん改良を加えて良い商品を生み出したいと意欲満々です。



4. 「中国四国 集落営農・特定農業法人サミット」の開催について（ご案内）

特徴的な集落営農の組織化、経営の合理化を実践している組織の代表者などの発表や意見を参考として地域農業の発展を図ることを目的に、「集落営農・特定農業法人サミット」が12月11日・12日に松江市（くにびきメッセ ほか）で開催されます。〔主催：中国四国農政局、島根県担い手育成総合支援協議会〕

今回は『ムラを守り、ムラで発展する集落営農・特定農業法人を目指して』をテーマに、基調講演や事例報告、現地研修会が開催されるほか、会場内に生産物や商品、PRパネルを展示する交流スペースも設けられ、希望者は出展することもできます。

参加を希望される方は支援センターまでご連絡ください。【申込締切：11月10日(月)】

5. 今後の行事予定

- 11月12日(水)～14日(金) 担い手先進地視察研修会（第11回全国農業担い手サミット in みえ）
- 12月 3日(水) 集落営農先進地視察研修会（山口県阿武町、萩市）
- 12月11日(木)・12日(金) 集落営農・特定農業法人サミット（松江市）

■■ 編集後記 ■■

本誌第16号・17号の「遊休農機具あつ旋コーナー」で紹介した押し切りと椎茸乾燥機は、お陰様で買い手が見つかりました。ご提供いただいた皆さん、ありがとうございました。押し切りも乾燥機も、新しい持ち主のもとで大いに活躍していることでしょう。（※押し切りはもう1台残っています。千円でいかがですか？）

不用になった農機具の有効利用を図ることは、売り手と買い手の双方にメリットがあります。島根県の農業経営課から「ユニーク」だとお褒めの言葉をいただいたあつ旋コーナーをこれからも続けていきたいと思いますので、他人に譲っても良い農機具があれば支援センターまでお知らせください！

○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様にご配信中です。
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。



■ 発行元 浜田市農林業支援センター
TEL：22-3500 FAX：22-3477

〒697-0026 島根県浜田市田町765-1
E-mail:n-shien@city.hamada.shimane.jp